

令和8年 1月 8日 (木)

あさひの日だまり

NO.30

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～今年もお世話になります～

あけましておめでとうございます。

令和8年が始まりました。学校も今日からスタートです。新鮮な気持ちで子どもたちと毎日の学校生活を送りたいと思います。ご家族の皆様、地域の皆様には1年間お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

休み中ある出来事を通して心を動かされたことがありましたのでここに記し、新年のあいさつにかえさせて頂ければと思います。



まず写真をご覧ください。見えにくい写真で申し訳ございません。

これは箱根駅伝の復路の鶴見中継所で今まさにタスキリレーが行われている場面です。復路の鶴見中継所は最後の中継所です。去年はもう少し前の沿道で応援したのですが、今年はどうしても中継所の様子を見たくて通過予定時間の1時間ほど前に鶴見駅に到着し歩いて中継所を訪れました。

沿道には多くの方が訪れて選手が走り込んでくるのを今か今かと待っていました。

今年も去年に続いてトップ通過は青山学院大学でした。しばらく時間をおいて次々に選手が走り込んできました。走り込んできた勢いそのままに走路

に倒れ込む選手もいました。しばらく動くことができず、係の方や学校関係者の方に抱きあげられて控え所へ移動していく選手もいました。まさに今持っているすべての力を出し尽くした姿であろうと思いました。

私の心を動かしたのはそういった選手の姿とともに選手のすぐ後ろを走る監督を乗せた運営管理車から聞こえてくる各チームの監督の言葉でした。監督は声を張り上げてすぐ前を走る選手に声をかけます。そして中継所ではこんな声が聞こえてきました「ありがとう、ありがとう、本当にありがとう。4年間ここまで本当にご苦労さん」。どの監督の言葉にも選手への感謝が込められているのです。そして中には道に倒れ込んだままその言葉に答えようと監督へ向かって手を挙げる選手がいました。私はその光景が続いていくうちに思わず胸が熱くなりました。ちょっと考えてみると、今まで指導して下さいた監督に選手が感謝の言葉を送るなら、それはそういうものだろうと思うのです。ところが、監督が必死になって選手に対して感謝の思いを伝えようとしている様子がそこにはありました。

私はふと自分の学校のことを思い出しました。「私は毎日頑張って登校してきてくれている子どもたちに感謝の気持ちを送ってきていただろうか」と。

今思うと「学校は来るのが当たり前」と考えて子どもたちのことを子どもたちの立場で考えることなく過ごしていたのではないかなと思うことがあります。子どもたちは今まさに成長の過程におり、色々なことに戸惑い友達関係にも迷い悩みながら学校へ毎日登校して来ます。決して学校へ来るのが当たり前ということではないと思うのです。

この3学期、子どもたちへ向かう自分の心持を誠実に見つめながら、先生方、子どもたち、ご家族の皆様、地域の皆様とともに学校創りに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

始業式でお話しした内容を載せさせていただきます。楽しい学校創りに資することができたら幸いと思いお話をしました。

新年あけましておめでとうございます。お休みが終わって皆さんとこうして顔を合わせることができて今とても「幸

せだな」と感じています。学校へ行くこと気が進まないなと思った人もいましたよね。もしかしたら多かれ少なかれみんなそう思ったかもしれません。それでもここにこうしてみんな集まってくれました。本当にありがとうございます。だから余計に新しく始まる3学期そして、今年1年が皆さんにとって楽しいと思うことがたくさんあって欲しいと心から思い願っています。

ちょっと思い出してほしいんですけど、2学期の終業式で「自分を大切にしてください」というお話をしました。

皆さんは一人ひとりととてもとても大切な存在です。誰かは大切にされなくてよくて、誰かは大切にされなくてはいけないという区別は決してありません。鏡に映った人の大切さに差は決してないんです。どうぞ、今年1年間周りのお友だちのことをそして自分のことを大切にすることをお忘れなくください。

そこです。校長先生はいただいたこの自分の命を大切にするために、ちょっとカッコよく言い方を変えるとですね、隠された自分の力を発見するためにもいえるんですけど、今年も「挑戦」を続けようと決意しました。そして飽きもせず懲りもせずですねこの休みも近の駐車場へ行って一輪車の乗れる距離を伸ばすために練習を重ねました。その成果を見ていただいてもいいですか。

実は昨日教頭先生にお願いしてですね、映像を撮ってもらったんです。この体育館で一輪車に挑戦している映像です。「なぜ目の前で乗って見せないのか」と自分でも本当は思うんです。皆さんにこの場で直接見て欲しいと本当は思っているんです。

正直に言います。緊張しちゃってだめなんです。いいところを見せなきゃって思えば思うほど力が入っちゃってだめなんです。それじゃあ本物じゃないと言われそうです。意気地なしと思われるかもしれません。どうぞ許してください。

(映像を流しました)

ここまで来るのに1年間かかりました。「もう無理」って何度も思いました。60歳という自分の年齢を理由にしようと思ったこともあります。でもあきらめなくてよかったと本当に思っています。

そして今三つのことを思っています。

一つ目です「世の中やってみなきゃわからない」というあきらめない気持ちです

二つ目です「あきらめないで続ければ何とかなる」とい

う続けることのすごさです。

三つ目です「自分にはこんな隠れた力があつたんだ」という喜びの気持ちです。

皆さん、今年も自分の隠された力を信じて、一緒に「挑戦」する1年を楽しみましょう。

これでお話は終わりです。

